

年間聖句による説教

司会 櫻本順一兄  
奏楽 山田誠子姉

- 前奏
- 頌栄 119 (天の御国)
- 主の祈り
- 交誼詩編 105編111〜114節 (115歌)
- 讚美歌 511 (歌え聞かむ)
- 聖書 マルコによる福音書 16章  
9節〜18節 (新約7歌)
- 祈禱
- 讚美歌 4011 (ごきげんよう)
- 信仰告白 (使徒信條)
- 説教 「一人がひとり教会へ」
- 祈禱 村山盛芳牧師
- 今週の誕生者のための祈禱
- 聖餐式
- 讚美歌 81 (主の食事を囲む)
- 献金 65-1
- 派遣 91 (神の恵みゆたかに取む)
- 祝禱
- 後奏

… 報 告 …

報 告  
報 告  
報 告

ルカによる福音書24章13節〜35節

二人の男がエルサレムからエマオへと歩いていました。彼らはイエスの弟子で、失望と疑いの中にいました。ローマ帝国からユダヤを解放してくれる人物が救い主だ、と誰もが思っていた中、イエスが殺されたことは、二人にとって大打撃でした。

後から彼らに加わった男性は、そっと二人の横に行かれ、共に歩まれました。その人は、ふたりの嘆き、愚痴、否定的な言葉を夕暮れ時まで聞き、ずっと一緒にいて下さったのです。旧約聖書を引用し、救い主である印は、第一に「苦しみを受け」ること、第二に「栄光にはいる」こと、つまりよみがえる事であると説明されました。聖書を正しく知ることのほうが大切だと、イエスはお考えになったようです。

日も暮れてきたので、二人は同行者と夕食を共にしました。その人物の食前の祈りで、主イエスだ気がつかしました。すると、イエスの姿はもうそこにはありませんでした。「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたのではないか。」二人の心が燃えたのはいつでしょうか。同行者が誰だか分からない時に、すでに心は燃えていたのです。奇跡を見たり、特殊な経験をしたら心が燃えるのではなく、聖書が開かれ、その意味が分かった時に、心の奥が力強く燃え上がるのです。

イエスは、私たちの身代わりになって十字架にかかって下さいました。身代わりとは、イエスが死ななかつたなら、私が死んだという意味です。イエスがよみがえったのは、イエスが間違いなく、聖書が預言していた救い主であるという意味です。

私たちは、神の愛を感謝し、よみがえられて私たちの横を歩いてくださる主イエスを思い起こしましょう。失望と疑いの中にいるなら、イエスは横におられます。私たちの心を燃え立たせてくれる聖書に親しみましょう。

(村山盛芳牧師)

# 週 報

日本キリスト教団

みなみやま

## 南山教会

<年間聖句>

「それから、イエスは言われた。『全世界に行って、すべての造られたものに、福音を宣べ伝えなさい』(マルコによる福音書16章15節)

<年主題>

一人がひとりを教会へ



Since 1947. 8. 1. 創立70周年

〒470-0111  
愛知県日進市米野木町南山983-16  
(愛知牧場内)

牧 師 村山盛芳  
伝道師 本間優太

TEL 0561-73-6781 FAX 0561-76-3005  
教会メールアドレス minamiyama@mb.ccnw.ne.jp  
HP www.mb.ccnw.ne.jp/minamiyama/